

シナリオを早期に完成させ、JICA や研究機関、NGO 等との連携によりきめ細やかで革新的な手法を確立し、支援を実施することが必要である。京都議定書の第 2 約束期間から離脱した日本に対する世界の目は、厳しい。ダーバン合意が生まれた今、その交渉においてリーダーシップをとる努力をすることは、日本が果たすべき最低限の役割である。より野心的で迅速なダーバン合意の発効に向け、日本からの REDD+ の支援メカニズムの早期構築への貢献が必要とされている。

〔参考・引用文献〕 1) 以下のページよりダウンロード可能：<http://www.conservation.org/global/japan/>

[initiatives/climate/pages/policy.aspx](http://www.conservation.org/global/japan/initiatives/climate/pages/policy.aspx) ①森林減少および劣化による排出の要因（ドライバー）に関する提言書（英語版） ② REDD+ の結果に基づく、資金援助と活動内容のモダリティと方法に関する提言書（英語版） ③森林モニタリング・システムに関する提言書（英語版） 2) 以下のページよりダウンロード可能：<http://www.conservation.org/global/japan/initiatives/climate/Pages/reddcommunitymanual.aspx> 3) 環境省受託事業 平成 23 年度新メカニズム実現可能性調査「カンボジア・プレイロング地域における REDD+ に関する新メカニズム実現可能性調査」報告書 4) 同報告書内ワークショップ報告書「プレイロング地域の森林減少の要因」著者：Fabiano Godoy, Iben Nielsen, Jenny Hewson, Anurag Ramachandra, and Aya Uruguchi

図書紹介

森のバランス—植物と土壌の相互作用—

森林立地学会編、A5 判 316 頁、2940 円（税込）【創立 50 周年記念出版】ISBN978-4-486-01933-6 C3045

森林総合研究所四国支所森下智陽さんの発表「森のバランス」編集から考えた「森林研究のバランス」を聞いているうちに、同書が欲しくてたまらなくなりました。森林立地学会シンポジウム「新しい森林立地研究を目指して」—森林立地 50 周年「森のバランス」出版記念—の席のことである。同書の章立てや執筆者年齢構成など編集にまつわる話も興味深かったけれど、すぐにおうと思わなかった。しかし、森下さんが共著者として執筆している「森林火災」について、ロシアとインドネシアの森林火災の映像と、火災の環境影響とくにインドネシアの泥炭地火災による窒素酸化物の発生の話を聞いているうちに欲しくてたまらなくなり、シンポジウムの終わりを待たずにシンポジウム受付に行き購入した。

同書は、森林土壌を中心とした森林の環境と植生の関係について、さまざまな物質の動き（物質循環）から描き出している。森林と環境および人間活動との関わりについて、地球温暖化、生物多様性、人工林、森林火災、里山など最近の話題を踏まえて

概説する第 I 部、森林の有機物動態について、世界の植生分布、土壌の働き、物質生産や分解など過程を解説する第 II 部、森林生態系内の物質の動きについて、炭素、窒素、リンなど個々の元素についてまた物質相互の関係などを解説する第 III 部で構成されている。第 I 部から通読することで、森林とそれを取り巻く環境の間の物質の動きを全体像からその構成単位へと掘り下げて理解できるよう、工夫されている。また各章は、それぞれに独立した読み物として完結しているため、個別の話題に興味を持つ人はそれに対応する章を読むことで、その分野の最新の情報と参考文献を知ることができる。

冒頭のシンポジウム会場（宇都宮）から自宅（つくば）に帰る際、電車を乗り継ぎながら同書を一気に読んだ。読み終えたとき、急いで買って読んで良かったと感じたことから、要所を直すと共にいろんな人に勧めている。正直なところ自然科学の本であるため文系の方にはわかりにくいと思う。その一方で「海外の森林と林業」に関心がある人なら、森林林業の基礎として目をとっていただければと考える。余談ながら、森下さんの発表を聞いて一番掘り下げて知りたいと感じたことが、同書にはでていなかった。次の執筆が楽しみである。

（藤間 剛）